

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人善永学園
光輪幼稚園

1. 本園の教育目標

感謝と思いやりを育てる教育（まことの保育）

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

伝統を大切にするとともに、今の時代に即した教育や対応を学び、実践できるように
取り組む

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

評価項目	評価	取り組み状況・結果
園の教育理念 （まことの保育）	A	園の教育理念を理解し、教育方針にも自分の明確な教育観をもって行うことができた。
教育課程	A	幼児教育要領および園の教育方針「感謝と 思いやりを育てる教育」を理解し実践することだできた。
指導計画	A	園の教育理念を踏まえた上で指導計画を立てた。 日々の保育の記録を取り反省や検討をし次の指導計画にいかすことができている。
環境構成	A	幼児が安全で清潔な環境の中で心身ともに安定し興味関心を持って、遊び込める環境づくりができている。
幼児理解	A	1人1人の幼児の様子を観察、理解し、特別支援教育など特殊な発達段階についても理解し、寄り添うよう努めた。
健康安全面	A	登園時に子どもたちひとりひとりの視診を徹底し、家庭との連絡をするなど体調面の配慮に努めた。
保育態度	A	幼児と同じ目線にたってもものを見つめ、幼児の思いに寄り添うことに努めた。幼児が自発的に活動できるような言葉かけや働きかけに努めた。個性や性格、年齢や発達差に応じた関わり方にも注視した。
学級経営	A	学級のことについても、担任以外の教職員とも情報交換できる環境づくりを行った。教室の環境構成についても、日常的に点検し安全な保育環境を維持できた。
研修研究	B	定期的に保育研修会に参加し、教員間で研究発表を実施した。自分の得意分野だけでなく、不得意分野についても勉強が必要と感じた。
資質向上	A	仕事の手順を考え、能率良く働くことに努めた。 仕事外でも社会に目を向け、専門知識や技能などを身につけようと努力した。

保育管理	A	日々の保育や行事等の流れを考え、時間管理に努めた。
保護者との関係性	A	子どもの様子を正確に伝え、子育ての不安を理解し、子育て相談にも応じることができた。学年だよりや連絡を通して、子どもたちの様子を知らせることができた。
地域との関わり	B	幼少の連携や相互訪問など進学先の小学校と連携を密にとることができた。コロナ禍から地域との交流が少なくなってしまった。
教員間の関わり	A	報告・連絡・相談の徹底を図り園全体で情報共有するように努めた。チーム保育の先生と事前にカリキュラムを確認し、スムーズに保育を進めた。
生活態度	A	挨拶など明るく親しみを込めて行った。 いつも感謝の気持ちを忘れないように努めた。
向上心	A	どんなことでも前向きに行動し、苦手なことにも積極的に取り組もうと努力できた。
情報活用	A	インターネット等を利用し様々な情報を収集した。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

- ・全職員が自己評価に取り組むことにより、自らの保育を振り返り様々な課題が見えてきた。
その課題を踏まえ、よりよい保育ができるように努力することを共通理解した。

5. 今後取り組む課題

1. 教師としての資質向上

経験年数が長い教員が多いため、改めて個々の目標や普段の保育の振り返りをおこない、各自向上心を持って保育に関わるようにする。

2. 教職員の連携により保育の質を高める

- ・担任、チーム保育、事務全ての教職員の情報共有と伝達の徹底。
- ・教職員と保護者との信頼関係を深める。

6. 学校関係者の評価

「ひとりひとりを大切に」園のスローガン通り、園に預けて実際に先生方やバスの運転手さん、事務の方がみんな同じ目標を持ち、子どもたちを常に明るく温かく見守ってくださっていると感じました。コロナ禍も様々な工夫をして保育してくださり、子どもたちに色々な体験をさせていただきました。ICT化も進み、園への連絡方法等、以前よりだいぶ楽になったように感じました。